

令和6年度県立高等学校進路指導協議会調査研究部会 進学部門 アンケート報告

神奈川総合高校 布田 佳奈子／横須賀高校 渡辺 奈津美／湘南台高校 藤岡 敦子

1 調査の目的

現場の声を進路指導に生かす目的で実施してきた本アンケート調査は今年度 35 回目を数える。神奈川県内の県立高校 128 校から回答（回答率は 83%）を得て、分析を行った。ご協力ありがとうございました。

2020 年度から、大学入試改革や文部科学省の GIGA スクール構想下での ICT 化の促進、新型コロナウィルス感染の拡大も相まって教育現場は近年、大きな変革を経験してきた。生徒の進路環境も年々変化し、進路指導の方法も変更を迫られる一方、現場では様々な工夫も行われている。

本アンケートは、そのような進路指導の現場の変化の状況や現状の把握・分析を行い、結果を提示することで、教職員の皆様の進路指導の一助とすることを目的として実施した。

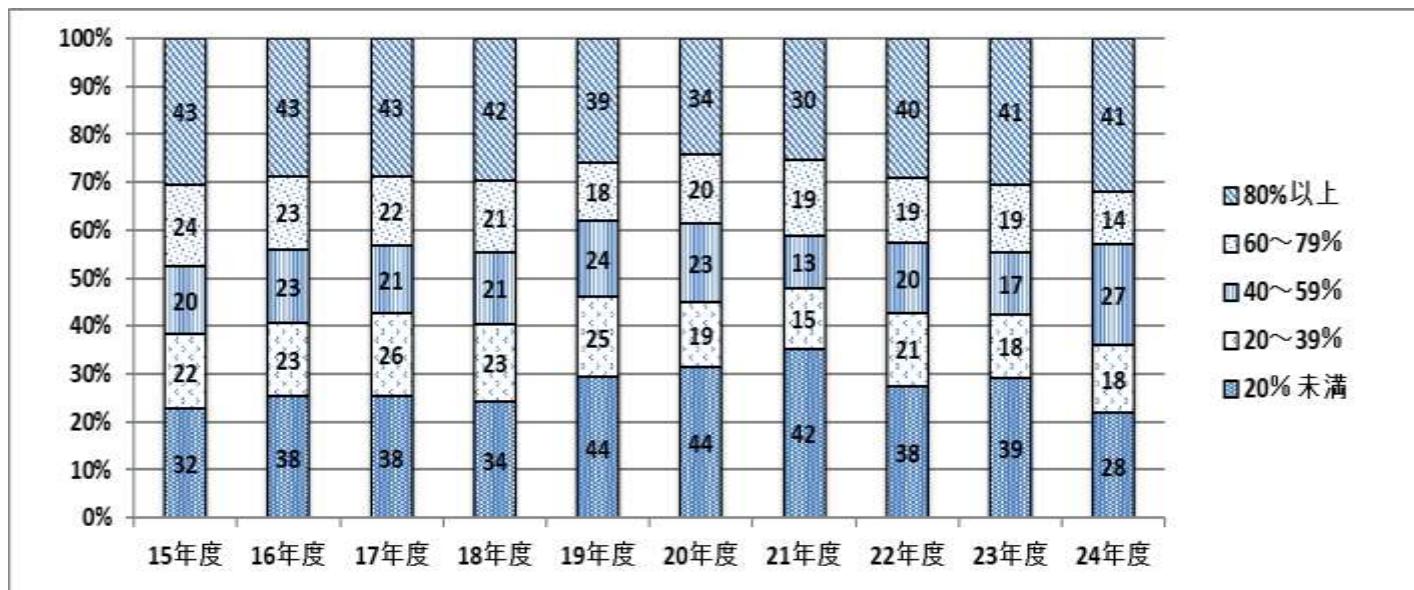
アンケート結果回収数 (単位) 校

15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
141	150	150	141	150	140	119	138	134	128

項目 1 四年制大学について

質問 1 貴校の四年制大学進学希望者の割合はおよそ何%ですか。来春卒業予定者について全体を 100% とし、四年制大学進学希望者の割合を答えてください。

四年制大学進学希望者の割合

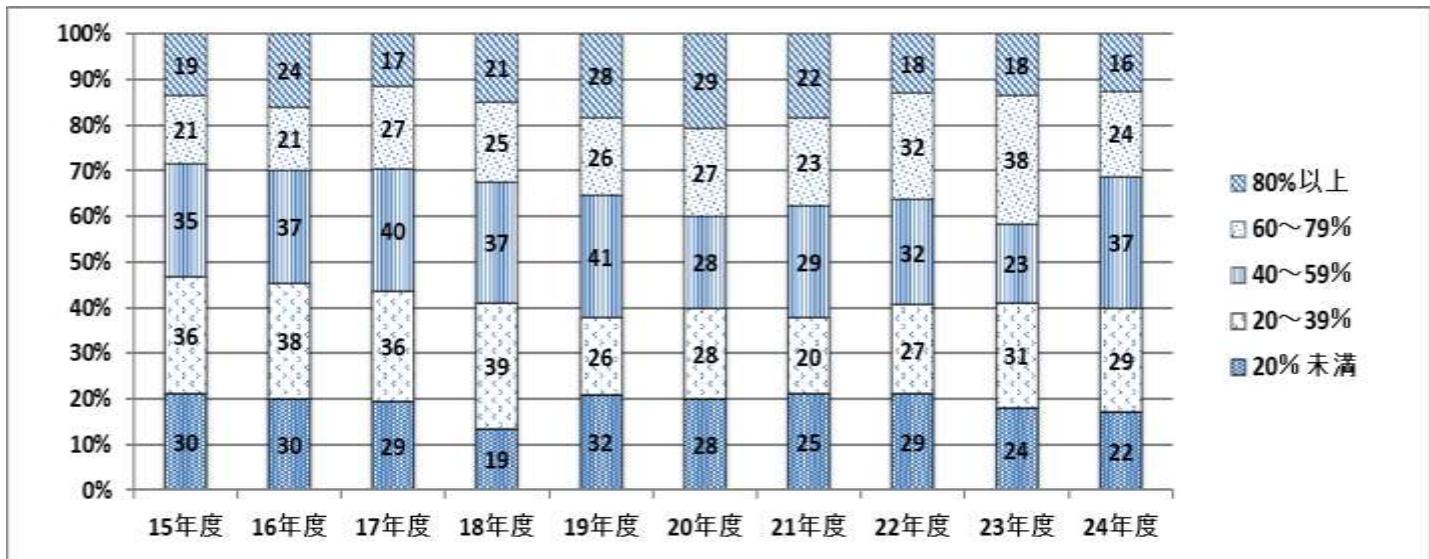


2024 年度は、40~59% の生徒が四年制大学を希望している高校が 10 ポイント以上増加する一方、20%未満の高校は減少しており、四年制大学への進学を希望する生徒が増えていることが分かる。少子化の影響で四年制大学への進学のハードルが下がっている影響があると考えられる。

質問2 四年制大学進学希望者のうち、学校推薦型 選抜（公募・指定校 利用者の割合は およそ何%ですか。

四年制大学進学希望者を 100% とし、答えてください。

四年制大学進学希望者のうち、学校推薦型(指定校・公募)入試制度利用者の割合



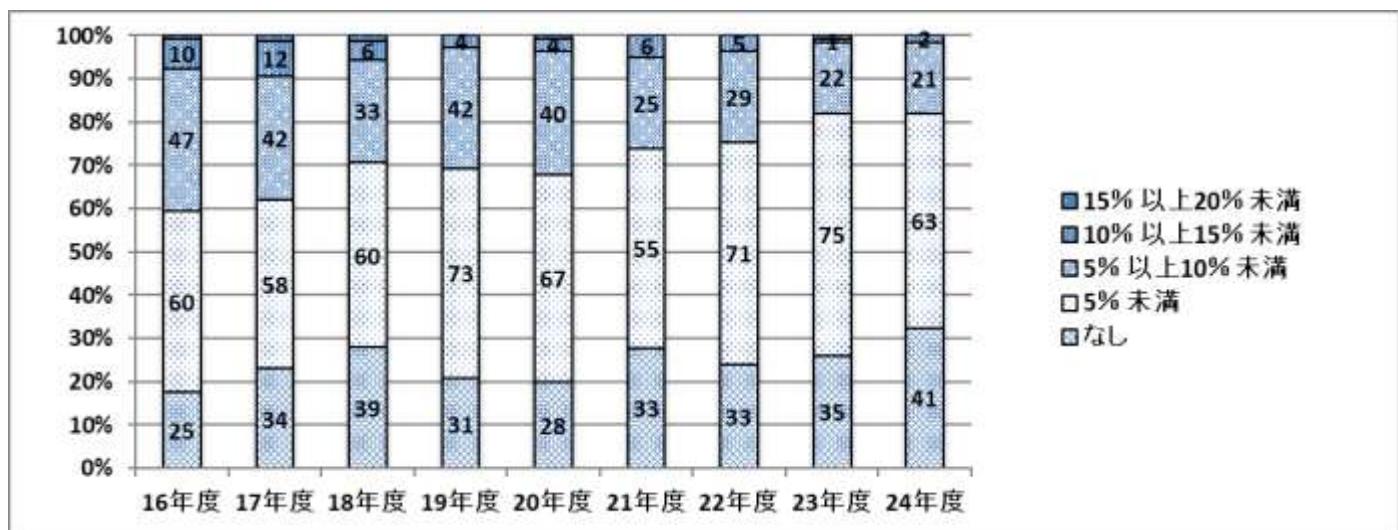
80%以上が学校推薦型を利用するという高校は微減の一方で、半分程度が学校推薦型を利用するという高校は増えている。後のデータ（質問11）で提示される総合型選抜の割合の増加なども踏まえると、年内の選抜で進学先を決定する傾向は高まっていると考えられる。

項目2 短期大学について

質問3 貴校の短大進学希望者の割合はおよそ何%ですか。来春卒業予定者について全体を 100% とし、短大進

学希望者の割合を答えてください。

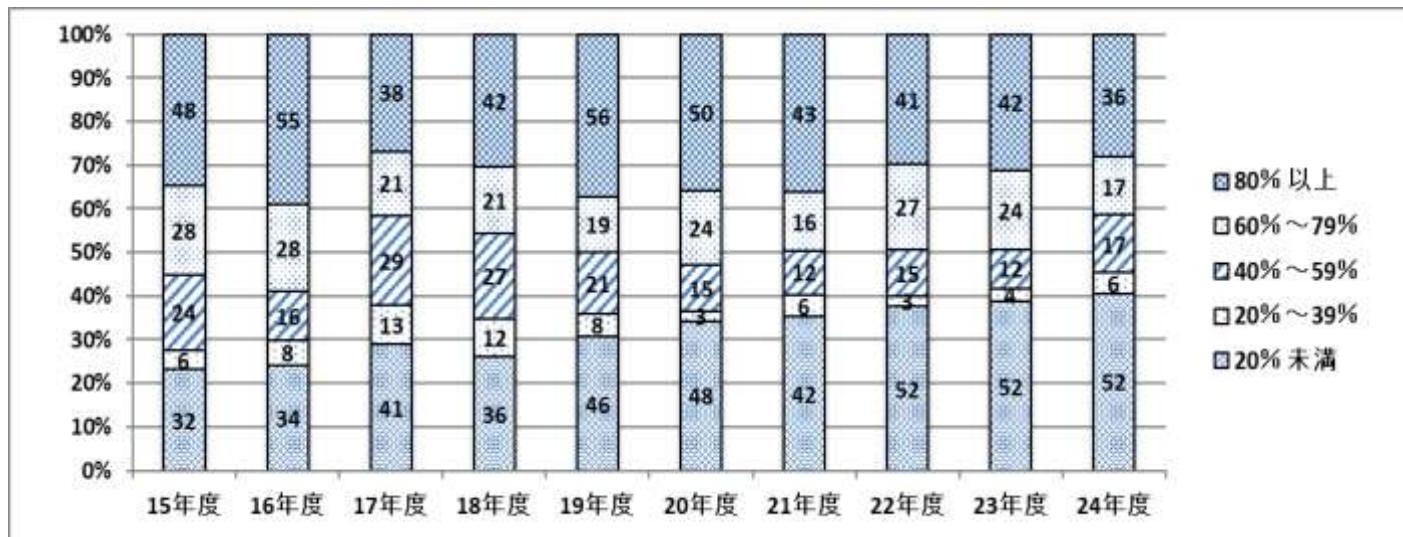
短期大学進学希望者の割合



2016 年以降、短大を希望する生徒が 0 ~ 5 %未満の高校が増加傾向である一方、20%以上の高校の減少傾向が続いている。短期大学を希望する生徒の割合が減ってきており、近年は、短期大学の募集停止が進んでいることも相まって、短期大学を希望する生徒が更に減少していると言える。

質問4 短大進学希望者のうち、学校推薦型選抜（公募・指定校）利用者の割合はおよそ何%ですか。短大進学希望者を100%とし、学校推薦型選抜利用者の割合を答えてください。

短期大学進学希望者のうち、学校推薦型(指定校・公募) 入試制度利用者の割合

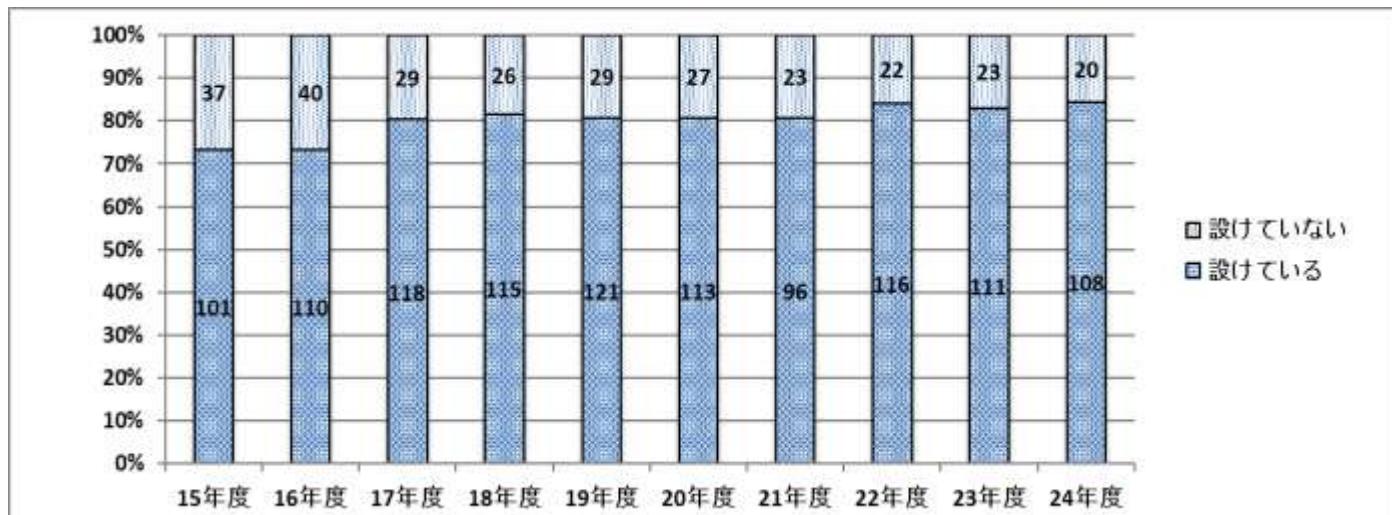


私立大学入学定員厳格化が開始されてから、短期大学への進学については、学校推薦型選抜を利用する生徒が増加する高校と減少する高校とに二極化していた。2019年度からは、さらに20%未満の高校が増加して、80%以上の高校が減っている。短期大学入試では、学校推薦型選抜を利用しない生徒が増えていることがわかり、その傾向は2024年度入試でも続いている。

項目3 四年制大学の指定校推薦について

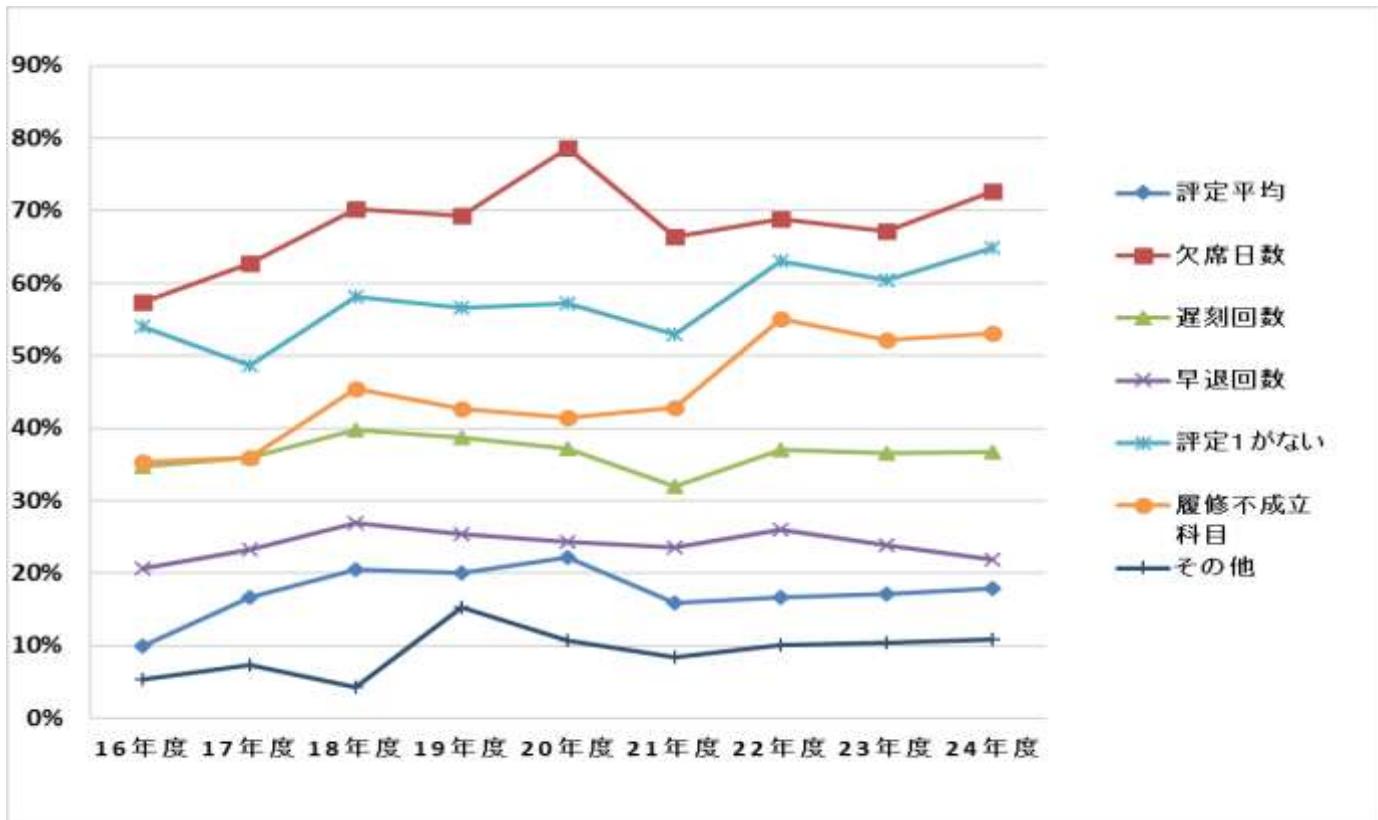
質問5 指定校推薦について、大学側からの基準以外に校内基準を設けていますか。 基準として用いている項目として該当するものをお選びください。

指定校推薦について、大学側からの基準以外に校内基準を設けている割合



年々、大学の基準以外に校内基準を設ける高校が増えてきており、現在は、84%以上の高校が何かしらの校内基準を設けていることがわかる。

大学側からの基準以外に設けている校内基準の内容



校内基準のうち「欠席日数」をあげる学校は、70%前後で推移している。また約半数の学校で「評定に1がないこと」、「履修不成立科目がないこと」を校内基準に設けていることがわかり、これは増加傾向にある。対して、「成績評定」や「遅刻回数」、「早退回数」を基準とする学校は3割程度で、この8年間でほぼ横ばい状況であり、新たな校内基準を導入する学校も、また削減する学校も少ないことがわかる。

質問6 質問5で「その他」と答えた場合、具体的にお答えください。

<その他の校内基準の具体例>

- 学業及び生活面において校長が推薦するにふさわしいと認められる者であること
- 校内推薦入試説明会への参加（生徒・保護者） ●オープンキャンパス等への参加
- 3年前期（1学期）の評定に1がないこと ●合格した場合、必ず志望校へ入学すること
- 長期留学をしていないこと

質問7 校内生徒向けに指定校推薦一覧を作成していますか。

作成の有無	校数	割合
一覧表を作成している	119	93%
一覧表を作成していない	9	7%
合計	128	100%

7%の学校は一覧表の作成をしていなかった。93%の学校は作成しているが、質問27「日ごろ感じている問題点」の回答の中で、「一覧表の作成＆点検」の作業をとても負担に感じているという意見が多くみられた。

質問8 指定校推薦一覧の公開範囲について生徒に示している項目をお答えください。

注:アンケート回収校のうち一覧表を作成している119校を母数とする

公開項目	校数	割合
上級学校名	119	100%
学部、学科・コース等	115	97%
推薦条件	101	85%
試験科目	50	42%
各種日程(出願締切等)	66	55%
合計	119	100%

推薦一覧表を作成している119校の高校の内、推薦条件までを提示している学校が85%を占めている。試験科目まで公開している高校は、42%にとどまっている。

質問9 指定校推薦一覧の作成について、課題や工夫している点などがあればお書きください。

【課題】

- 募集要項の書式が統一されていない
 - ・生徒が閲覧の際に、重要事項の見落とし、読み間違いを心配する。
 - ・一覧作成の際の要項読み取りに苦労している。
- 入力・点検作業の負担
 - ・入力・点検に膨大な時間がかかる。
 - ・生徒に伝える情報量（例：学費の減免など）を記載する ⇒ 入力・点検の負担増にもつながる。
- 推薦条件の多様化
 - ・学校名・学部学科・条件・試験内容・などが学校によって様々。
 - ・要項を読み取れない生徒には、個々に説明する必要がある。

【工夫】

- 一覧表の簡略化
 - ・掲載学校を精査、地域や卒業生進路先などに限定する。
 - ・公開項目以外は入力時に備考欄（未公開）などを活用する。
(例)回答期限、ダウンロードパスワードなど
 - ・募集要項と併用して補完する。読み取りのミスがないか注意する。
- 分類・整理と点検の工夫
 - ・業務アシスタントの活用など人的協力体制を確保
 - ・募集要項の重要項目へマーカーや系統別（例：看護、福祉など）にわける
⇒ ナンバリングして整理
- 公開の工夫と、情報の適切な管理
 - ・記載内容により、公開時期をずらす。
(例)学部・学科：夏休み前に公開 基準・選考方法など：夏休み後に詳細公開
 - ・一斉公開と比較して点検の負担が軽減
募集要項閲覧時は教員が立ち会う。※写真等の記録防止のため
閲覧者に対して、「早見表」と「詳細内容ファイル」などを作成して対応する。

〈補足〉 指定校推薦一覧を作成していない学校の状況

【周知方法】

- 一覧表による周知ではなく、志望の学部・学科リストのファイルを閲覧する方法をとっている。
- 要項のコピーをファイルに綴じたものをクラス分と進路分を作成し、閲覧を可としている。
- 募集要項の原本をスキャンし、電子データで本人に確認させている。

【課題】

- 要項の記載方法が学校によって異なるため、生徒による必要な情報の読み取りが大変

質問 10 指定校推薦会議の主な実施回数（予め年間行事に設定されている等）についてお答えください。

※ 生徒数の多い全日制と生徒数の少ない定時制・通信制に分けて分析を行った。

指定校推薦会議の主な実施回数と初回の指定校推薦会議で生徒が申請できる希望校数

〈全日制〉

	1回のみ	2回だけ	3回以上	合計
1校のみ	5	19	28	52
2校まで	2	25	13	40
3校まで	4	9	6	19
4校以上	0	1	0	1
合計	11	54	47	112

	1回のみ	2回だけ	3回以上	合計
1校のみ	4%	17%	25%	46%
2校まで	2%	22%	12%	36%
3校まで	4%	8%	5%	17%
4校以上	0%	1%	0%	1%
合計	10%	48%	42%	100%

全日制の学校では、指定校推薦会議の実施回数が1回のみの学校は、全体の10%であり、2回だけは48%、3回以上は42%であった。1回の推薦会議で生徒が申請できる希望校数と指定校推薦会議の実施回数との組み合わせにおいて、ポイントが高い順では、「1校・3回以上」「2校・2回」「1校・2回」となっている。また、1回目の会議で推薦を受けられなくても2回目の会議へ申請できるなど、一人の生徒について複数校への申請の機会が設けられている学校が多いことがわかった。また複数校に申請ができるからといって推薦会議の回数が少ないということではなかった。

〈定時制・通信制〉

	1回のみ	2回だけ	3回以上	合計
1校のみ	11	0	1	12
2校まで	0	2	1	3
3校まで	0	0	1	1
4校以上	0	0	0	0
合計	11	2	3	16

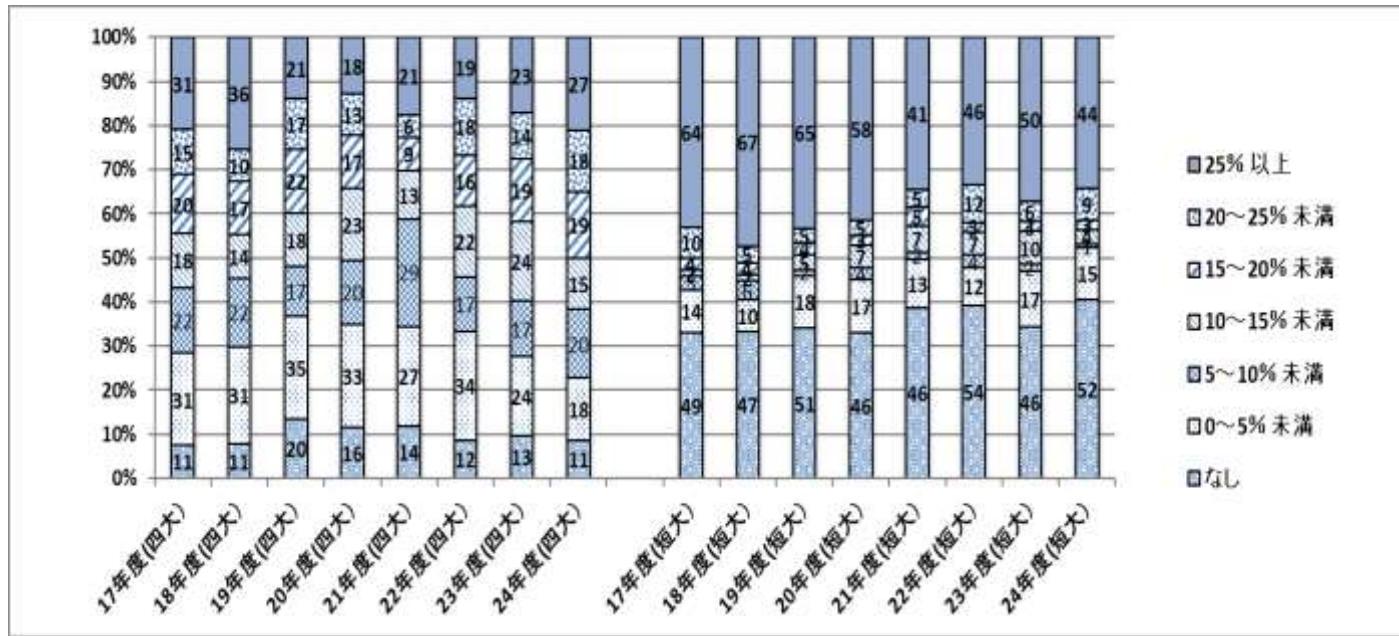
	1回のみ	2回だけ	3回以上	合計
1校のみ	69%	0%	6%	75%
2校まで	0%	13%	6%	19%
3校まで	0%	0%	6%	6%
4校以上	0%	0%	0%	0%
合計	69%	13%	19%	100%

定時制・通信制の学校では、指定校推薦会議の実施回数が1回のみの学校は、全体の69%であり、2回以上は31%であった。これは、全日制に比べて、定時制・通信制は生徒数が非常に少なく、1回の推薦会議で推薦先が決まってしまうのではないかと推測できる。1回の推薦会議で生徒が申請できる希望校数と指定校推薦会議の実施回数との組み合わせにおいて、「1校・1回」が全体の69%と抜きんでていた。

項目4 総合型選抜入試について

質問11 令和6年3月（昨年度）卒業生の四年制大学／短期大学 進学者のうち、総合型選抜入試を利用して入学したケースがありますか、またある場合にはその割合はおよそ何%ですか、四年制大学進学者を100%として、総合型選抜入試を利用して入学した生徒の割合を答えてください。

四年制大学／短期大学進学者のうち、総合型選抜を利用して入学した割合



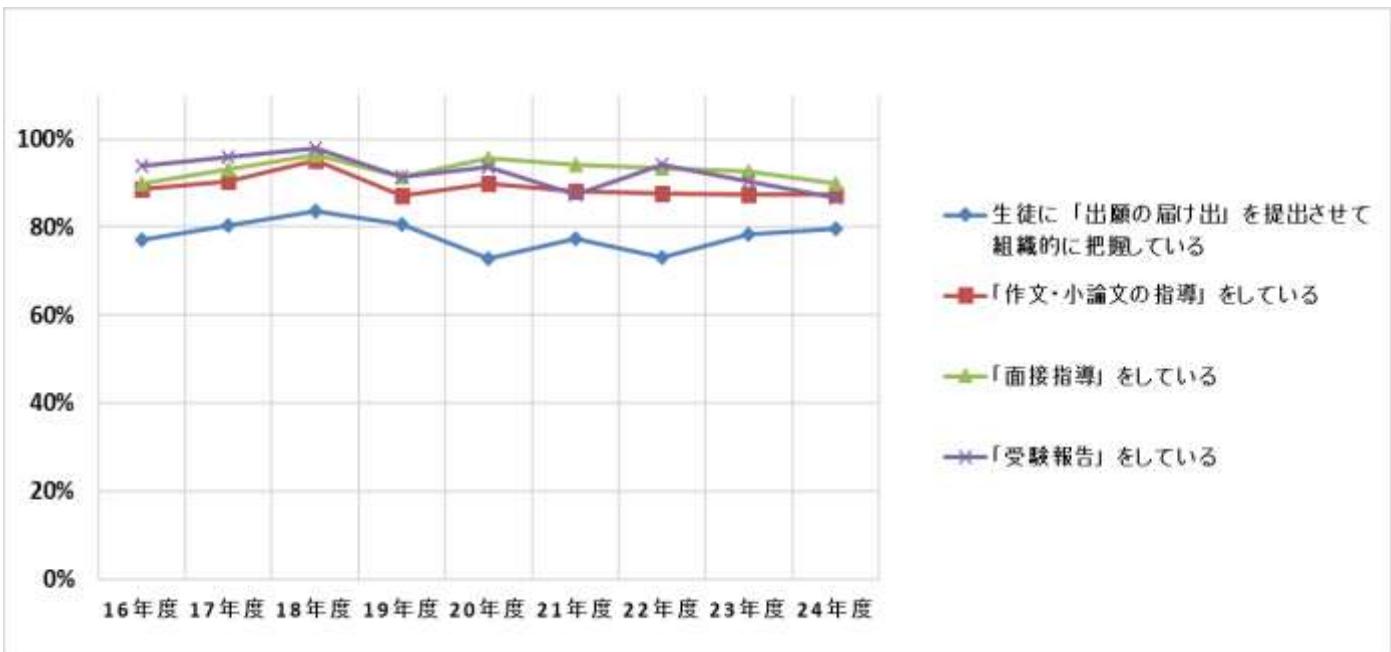
四年制大学進学では、2022年度から、総合型選抜を利用した生徒が、0%～5%未満、5%～10%未満、10%～15%未満の高校が徐々に減ってきている一方で、15%～20%、20%～25%、20%以上の高校が増えてきている。このことから総合型選抜入試を利用している生徒が明らかに増えていることがわかる。

短期大学進学では、なし、0%～5%未満の高校が増えている一方で、25%以上の高校が減少してきている。総合型選抜入試を利用する生徒が減少傾向となっている。

質問12 総合型選抜入試に関する指導について、生徒に「出願の届け出」をさせていますか。

質問13 総合型選抜入試に関して、生徒に対して行っている指導として該当するものを次の中からお選びください。

総合型選抜入試に関する指導について



80%以上の学校が、生徒の受験内容に応じて「作文・小論文指導」及び「面接指導」等の受験指導を実施している。同様に、ほとんどの学校において、「受験報告」も行われている。

質問14 質問13で「その他」と答えた場合、具体的にお答えください。

〈他の具体的な指導例〉

- オープンキャンパス参加の報告書の提出
 - 志望理由書、活動報告書、学修計画書
 - 口頭試問等
 - 事前課題やプレゼンテーションの練習等
 - 卒業生(総合型選抜合格者)によるビデオメッセージの視聴をさせる
 - スタディサプリでの指導
- など

質問15 専願と他の併願可能な大学（総合型、公募等推薦）との同時複数出願について、出願を認めていますか。

専願と他の併願可能な大学（総合型、公募等推薦）との同時複数出願について

同時出願	校数	割合
認めている	80	63%
認めていない	48	38%
合計	128	100%

同時出願を認めていない高校は約4割であり、6割の高校が同時出願を認めているが、認めている高校のほとんどが次のような条件付きで認めている。

質問 16 質問 15 で「認めている」と答えた場合や、総合型選抜入試への出願に関して校内ルールがあれば具体的にお答えください。

専願入試における他大学との同時出願に関する具体的な校内ルール

<同時出願を認めない高校のルールの例>

- 「専願扱い」の結果が出るまでは他の上級学校への出願を認めない。
※専願扱い・・・「合格した場合には入学を確約する者」や「第一志望とする者」など
- 複数エントリーする時点までは許可をしている。

<総合型選抜同士のみ併願可な高校のルールの例> ※学校推薦型は不可

- 総合型選抜にのみ専願+併願可の出願を認める。
- 学校推薦型との併願は認めない。(多数)

<同一大学・学部・学科に限る高校のルールの例> ※学校推薦型との同時出願可

- 基本、同時出願禁止だが、同一学校、同一学部・学科の場合に出願を認める。
事前に、高校と出願先の学校間でも確認を取る。
⇒ 指定校推薦の校内選考との調整などにも適用されている。
※学校推薦型が専願、併願可かどうかを区別している学校は見受けられなかった。

<併願可の大学との同時出願を認める高校のルールの例>

- 専願、併願ともに合格した場合は、必ず専願の大学に行くことを確認している。
確認手段として生徒、保護者に誓約書の提出を求める学校が多い。
- 確認手段の例
誓約書を出願時（発行願提出時）に提出
生徒・保護者との面談を実施、対面でルールの説明と理解をしてもらう。など

<その他の例 ①> ※学校推薦型に関するルール

- 学校推薦型選抜の同時出願は専願一校のみ
- 学校推薦型選抜においては併願可の学校同士の場合認める。

<その他の例 ②>

- ともに併願可能が明記されている学校間でなければ同時出願は認めない。
- 明確なルールはなく個別のケースで対応している

項目 5 大学入学共通テストについて

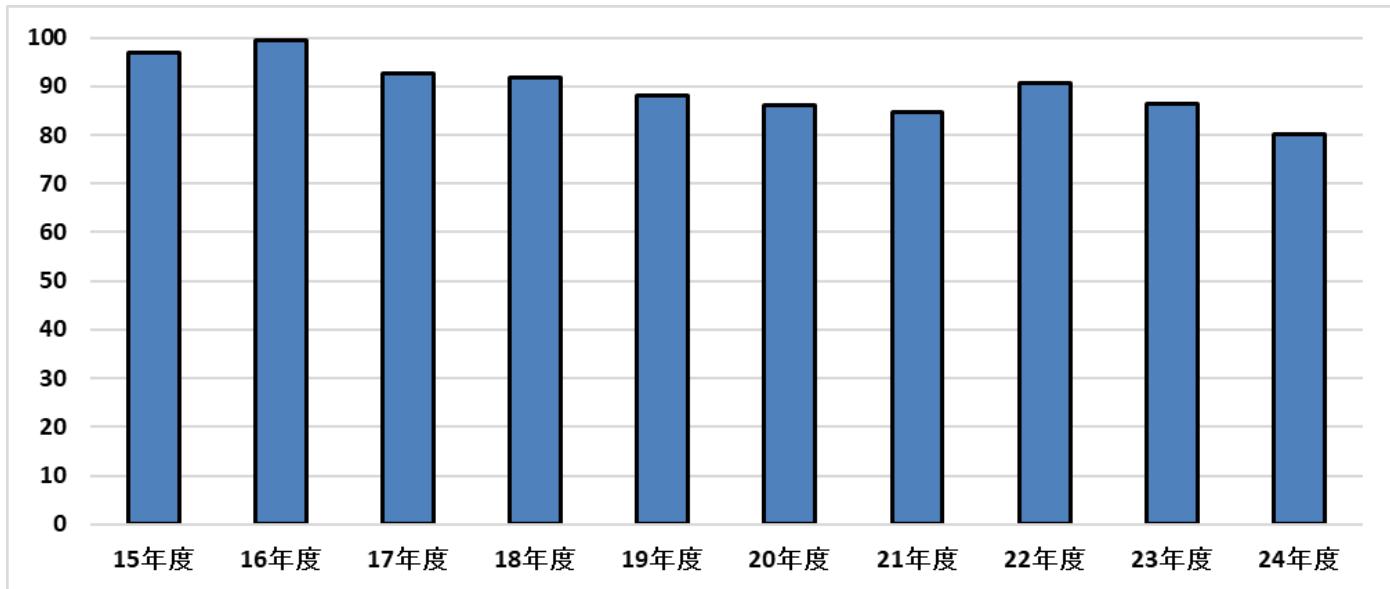
質問 17 来春卒業予定者の大学入学共通テスト出願者数をご記入ください。

大学入学共通テストの出願者数

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
回答校数	141	150	150	141	150	140	119	138	134	128
出願人数	13,679	14,912	13,913	12,926	13,227	12,036	10,077	12,498	11,559	10,270
1校当たり人数	97	99	93	92	88	86	85	91	86	80

※ 本アンケートへの回答高校数の増減によって、共通テスト出願人数の増減が影響するので、1校当たりの出願人数を算出した。

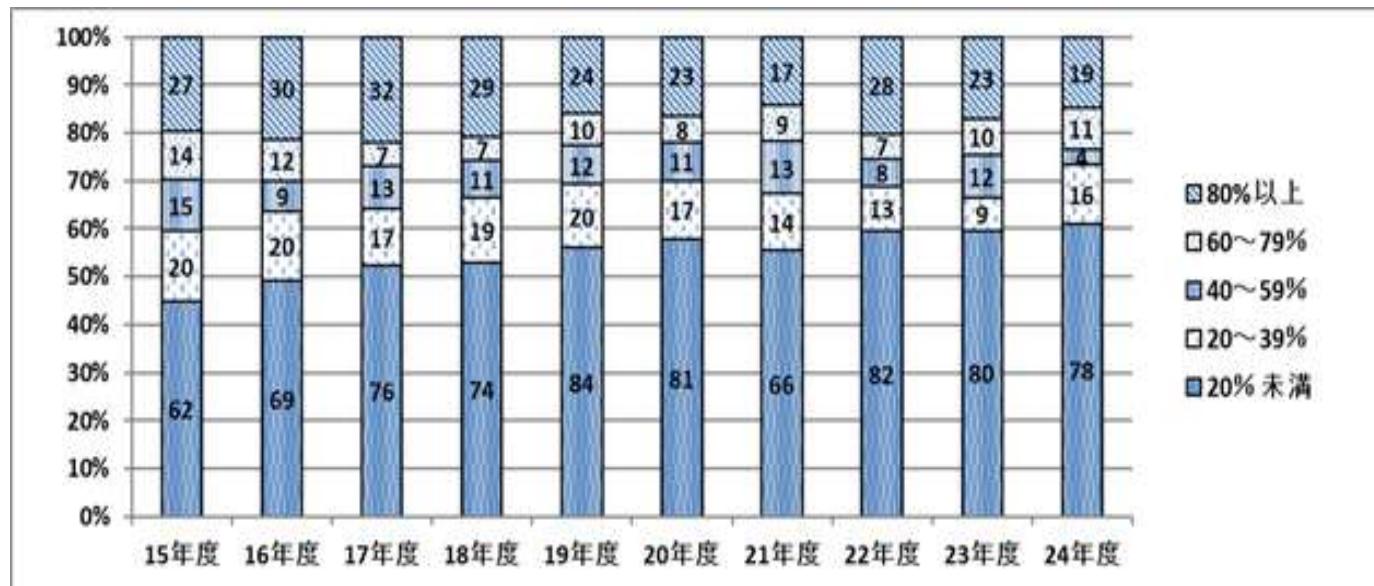
大学入学共通テストの1校あたり出願者数の推移



私立大学入学定員の厳格化の影響か、2016年度をピークに、1校当たりの共通テストの出願者数が年々減少してきていた。私立大学入学定員の厳格化が緩和されたために、2022年度に、1校当たりの出願者数が増えたと思われたが、2023年度以降に再び減少し2024年度も減少傾向は続いている。引き続き調査を進めて、原因を探っていきたい。

質問18 貴校の大学入学共通テスト出願者はおよそ何%ですか。来春卒業予定者全体を100%とし、共通テスト出願者の割合を次の選択肢群の中からお選びください。

卒業予定者における大学入学共通テストの出願者の割合（卒業予定者を100とする）

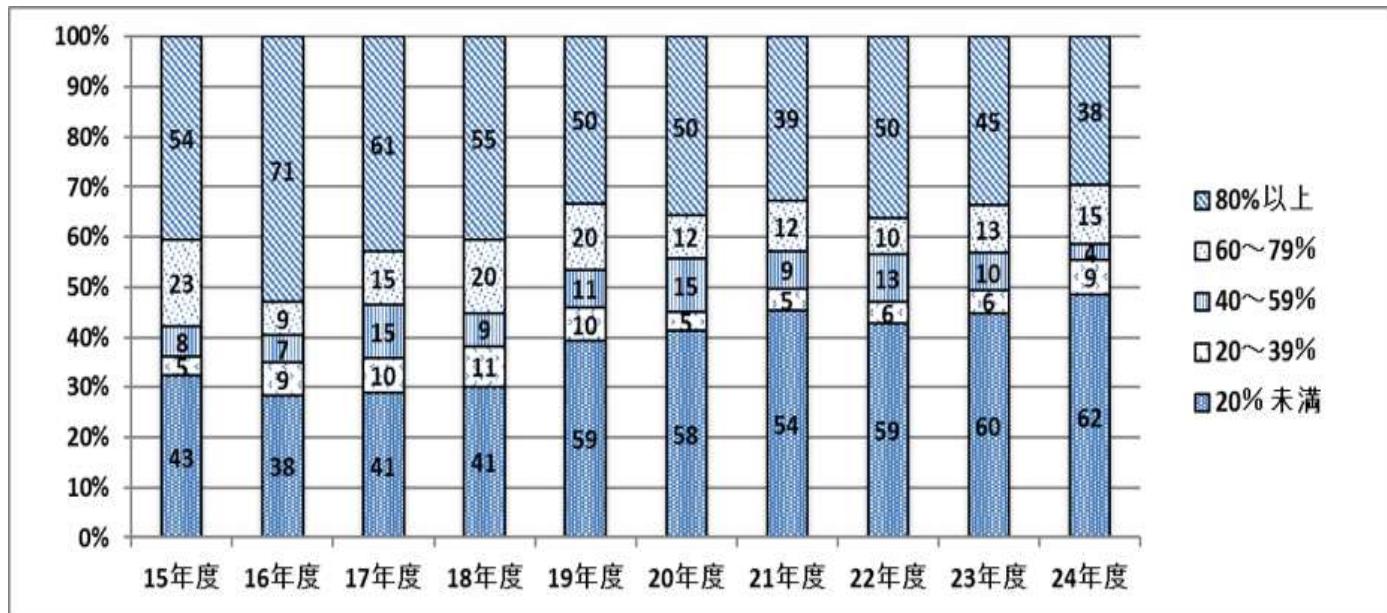


2022年度を皮切りに、共通テスト出願20%未満の学校が約60%を占めるようになった。一方で、1校あたり6割以上の生徒が共通テストを受験する学校は30%前後を推移している。さらに2024年、40~59%の生徒が受

験すると回答した高校が4校と激減した分、20%～39%と回答した高校が急増している。このことから、2024年については、共通テスト受験生徒が減少した高校が増加したということが考えられる。

質問19 令和6年度（昨年度入試）について、大学入学共通テスト受験者の割合を、出願者数を100%として、次の選択肢群の中からお選びください。

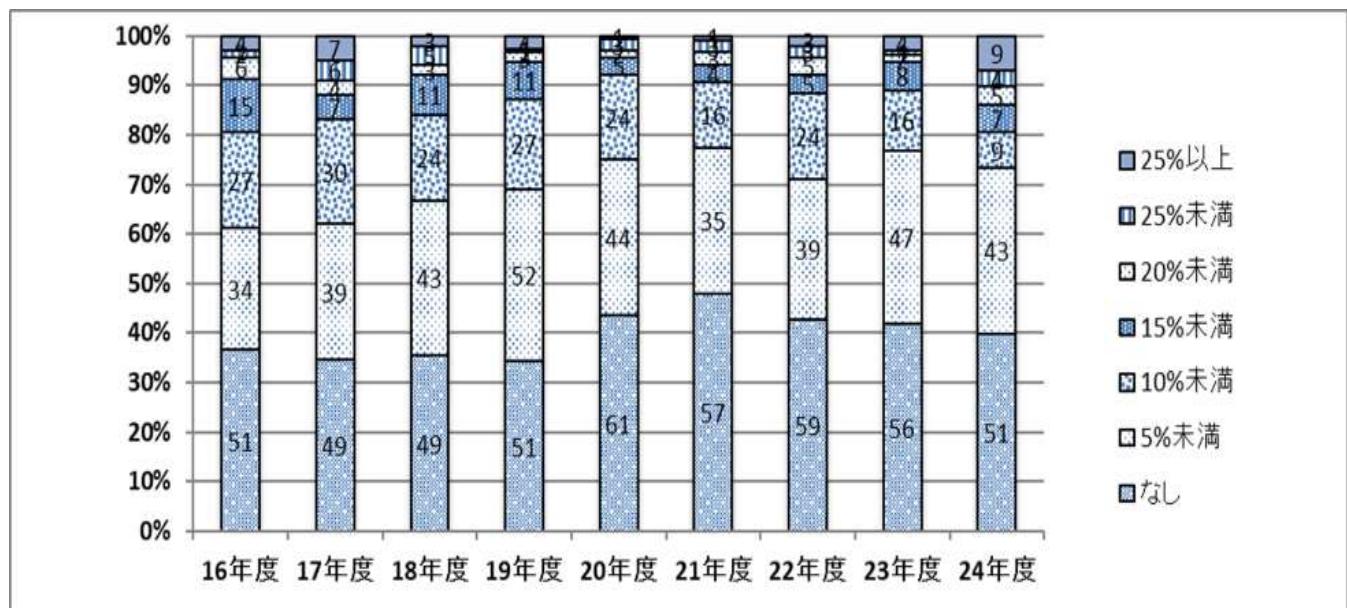
共通テスト出願者数における共通テスト受験者の割合



共通テストに出願しているが受験はしない生徒の割合が増加してきている。学校推薦型選抜や総合型選抜などの年内入試で進学を決定する生徒の割合が増えてきていることが原因と思われる。

質問20 令和6年度（昨年度入試）について、私立大学入学者のうち、大学入学共通テスト利用入学者の割合を次の選択肢群の中からお選びください。（1つのみ）

私立大学入学者のうち、共通テスト利用入学者の割合



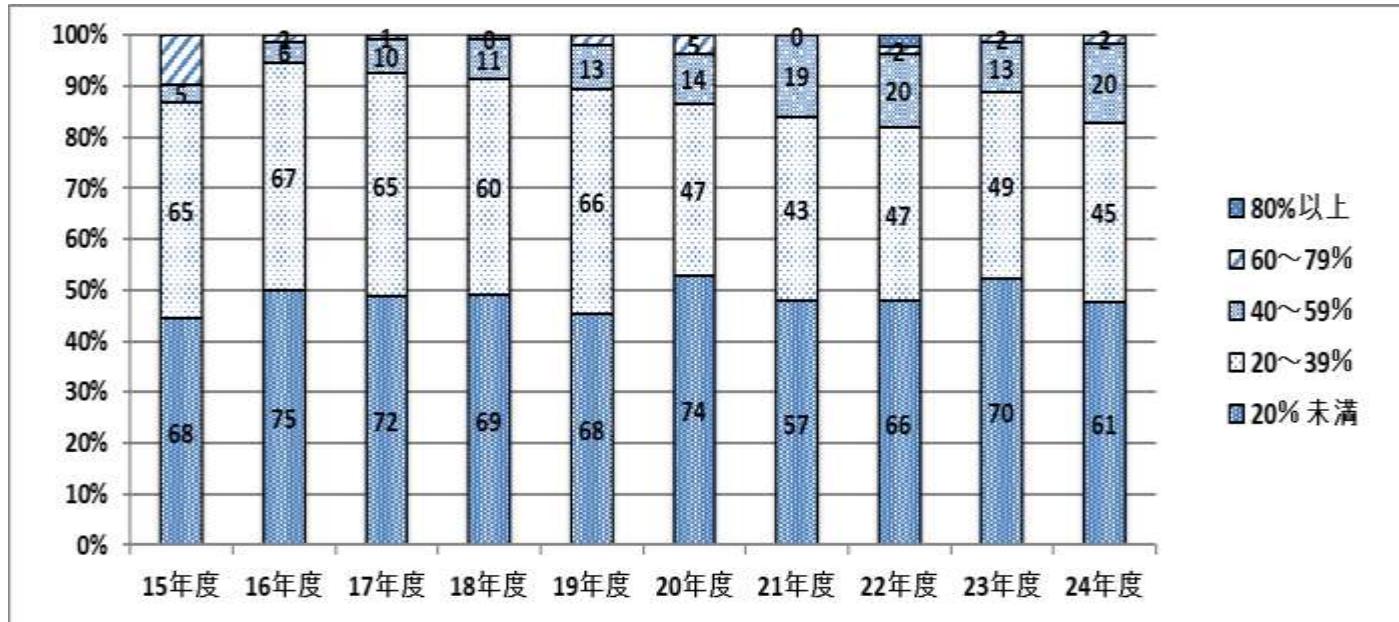
共通テストを利用して私立大学に入学する生徒の割合が10%未満の高校が8ポイント減少し、8割に減少する一方、25%以上の高校が4ポイント増加した。

私立大学入試において、共通テストを用いない生徒が大多数を占めるが、共通テストを利用する生徒は増えてきていることが推測される。

項目5 専門学校について

質問21 専門学校進学希望者の割合はおよそ何%ですか。来春卒業予定者について全体を100%とし、専門学校進学希望者の割合を次の選択肢群の中からお選びください。

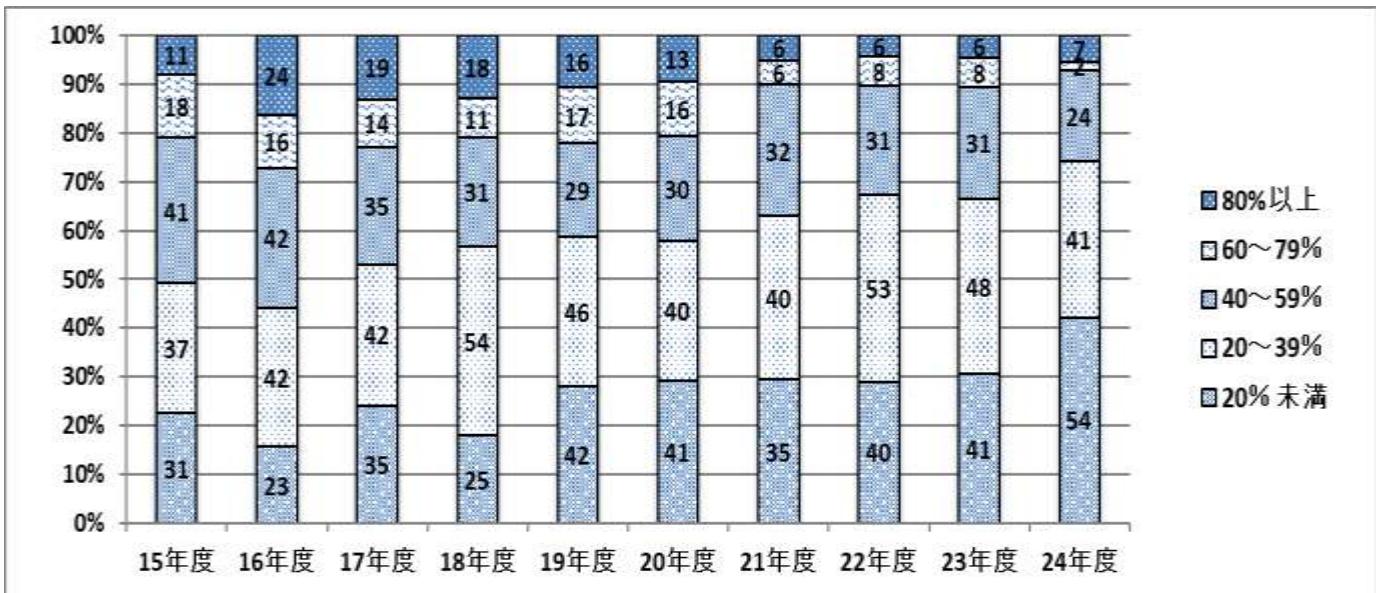
専門学校進学希望者の割合



40%～59%の割合の高校が以前に比べて高い傾向が続くなど、専門学校への進学希望生徒数の増加をしている学校も一定数あるが、20%未満の学校の割合は大きな変化が見られない。専門学校から大学へと進学希望を切り替える生徒も増えてはいるが、もともと割合が少ない学校での変化は少ないと推測される。

質問22 専門学校進学希望者のうち、推薦（公募・指定校）入試制度利用者の割合はおよそ何%ですか。専門学校進学希望者を100%とし、次の選択肢群の中からお選びください。

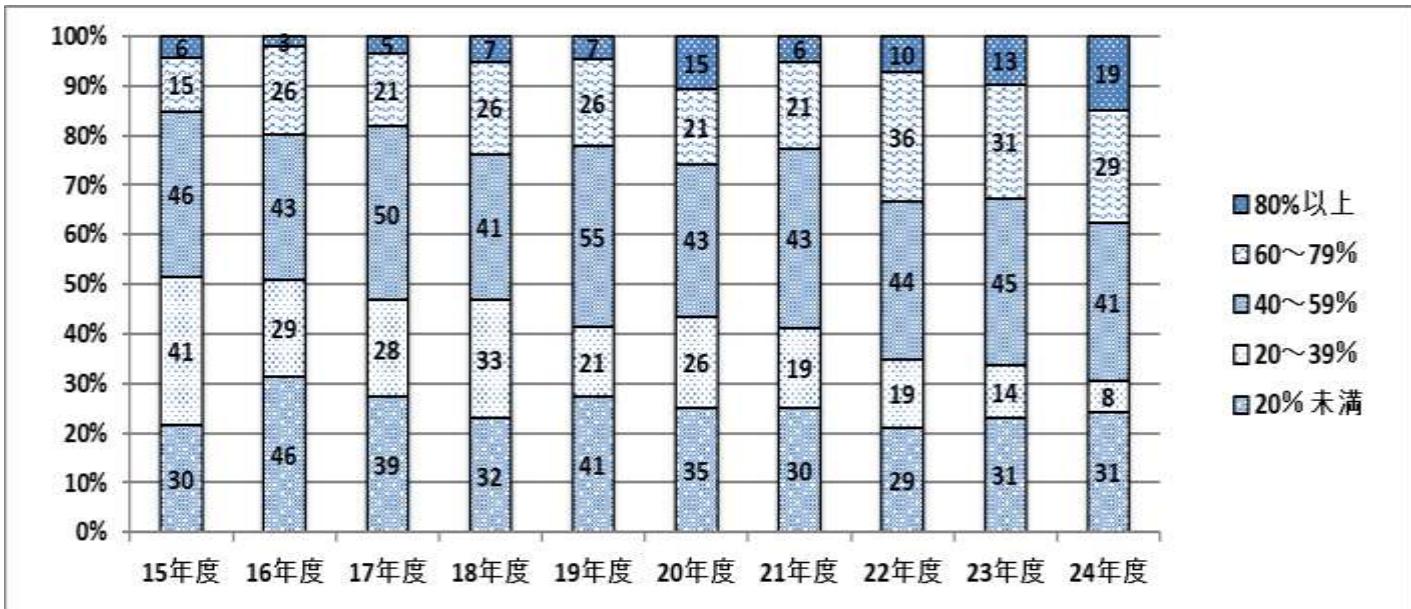
専門学校進学希望者のうち、推薦(指定校・公募制)入試制度利用者の割合



推薦利用者の割合が 20%未満の割合の高校の増加が顕著に見えた。他の入試形式を選択する傾向があつたようだが、AO 入試利用との比較を考慮してみる。

質問 23 専門学校進学希望者のうち、AO 入試制度利用者の割合はおよそ何%ですか。専門学校進学希望者を 100% とし、次の選択肢群の中からお選びください。

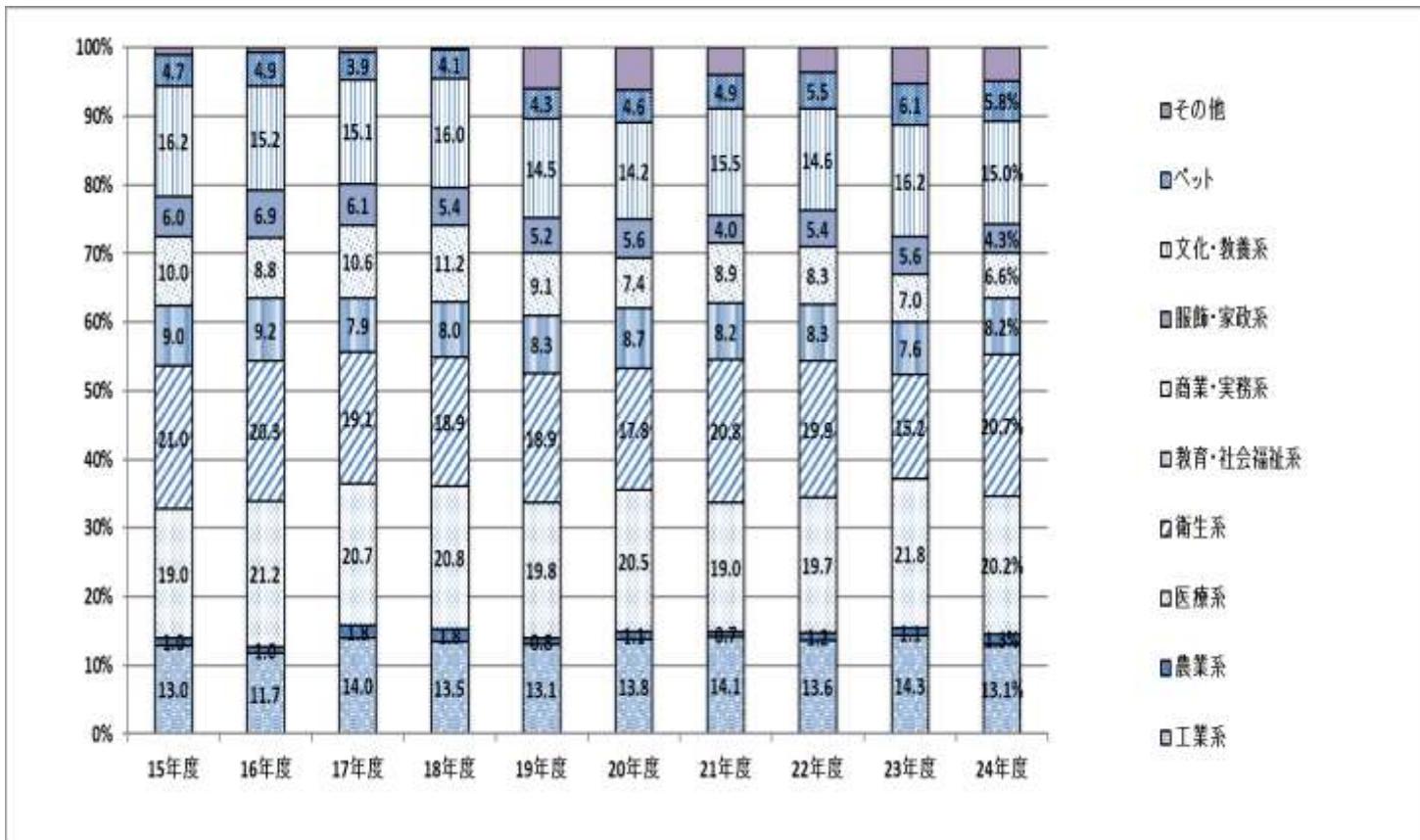
専門学校進学希望者のうち、AO 入試制度利用者の割合



AO 入試を利用している生徒の割合が 80%以上の学校の増加がみられるが、推薦利用の減少との関連性は見えなかった。早期に決定したい生徒の希望から AO 入試を選択することも一因ではあると考えられるが、生徒の動き出しが遅く、一般試験などを選択せざるを得ないことなども関わってきていると推測される。

質問 24 専門学校進学希望者のうち、各分野の現時点での希望者数を可能な範囲でお答えください。

専門学校進学希望者のうち、各分野の希望者数



全体的に例年との大きな変化はなかったが、前年より医療や衛生系で進学者が増えている。新型コロナウィルスの影響下で中学、高校生活を過ごした23年度卒までの生徒に見られた医療、衛生系を避ける流れも落ち着いてきたことも一因ではないかと考えられる。また、その他の項目の増加については分類すべき学科ができるないことがあげられるので、質問形式を改善していきたい。

項目6 学校推薦型（指定校）の統一書式について

質問 25 今年度より県内の大学の一部で学校推薦型の推薦書に関する統一書式が導入されました。

このことに関して、実際に利用した印象なども含めご意見や課題等ありましたらお書きください。

学校推薦型の推薦書の書式統一について意見や課題について（具体例）

<評価と課題>

- 教員の業務軽減について
 - ・PC入力により、下書きや清書・修正などが手軽にできた。
 - ・一部の大学のみの導入に過ぎないので業務軽減につながるまでにはいかない。
- 書式の統一について
 - ・視点が統一されていて書く内容や文字数が同じため作成がしやすく、起案もスムーズ。
 - ・大学によってはかえって文字数が増えた。
 - ・もっとシンプルな様式（記名のみ、選択式など）こそ歓迎したい。

<改善して欲しい点>

- フォーマットの統一と操作ソフトの多様化
 - ・PDFによる配付のため手書きとなった学校があった。
 - ・Word, Excel などから選択できるようにして欲しい。
- 分量の負担に関する要望

<その他>

- 導入校の**増加**と全国への波及
- **募集要項の統一に続くことを期待**
- 学力の三要素について
 - ・記載のしづらさへの意見。
 - ・学力の三要素ばかりを記載することで生徒の人物像が薄らぐ恐れを感じた。

本設問への回答から、推薦書の統一書式について、現場の教員からは概ね好意的な回答を得られており、PC 入力に関する課題等をはじめとする改善を重ねることで更なる推薦書の改善につながることを期待したい。また新課程における入学者選抜では、学力の三要素を評価するために推薦書も一つの重要な評価材料になることから、それらを踏まえた記載を教員に求められている。

項目7 学校内進路ガイダンスについて

質問26 学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組みがありましたらご紹介ください。

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み（具体例）

<進学関係>

- 進路相談会（卒業生、教育実習生、上級学校の学生に来てもらう）
- 進学ガイダンス（学校別、学部別、難関国公立、専門学校）
- 大学分野別講義、模擬授業、大学キャンパスツアー
- 受験方法別ガイダンス（推薦・総合型、一般受験、共通テスト）
- 一般入試出願指導、共通テスト分析会、受験報告会

<就職関係>

- 分野別キャリアガイダンス、職業別体験型ガイダンス
- 職業人講話、職業人インタビュー
- 公務員講座、校内の合同企業説明会
- 就職対象マナー講座
- ハローワークの職員による求人票の見方や過去の実績について

<科目・進路選択>

- 文理選択ガイダンス
- 看護・医療系ガイダンス

<お金に関すること>

- 生徒対象奨学金説明会
- 保護者対象学費についてのマネープランガイダンス

<職員対象>

- 大手予備校による進路説明会
- 専門学校の状況について、業者より担任向け研修

<保護者対象>

- 進路情報会
- 進路先となり得る企業や福祉事業所への保護者見学会

項目8 日頃感じている問題点

質問27 進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<受験の多様化>

- 年内入試など受験方法が多様化しており対応が大変である。
具体的には、総合型や公募推薦が増え、指導する職員の負担が増えている。

<専願・併願可の扱い>

- 専願・併願の解釈とエントリー期間の重複の扱いが難しい。

<大学・短大・専門学校の選抜方法の名称の違い／不統一な書式>

- 各学校の指定校推薦の条件の違いが大きいので、見落としてしまいそうです。
- 募集要項の細部まで読み込むことが大変である。統一書式にならないものか。
- 教員の働き方改革の為にも、募集要項の統一書式を進めて欲しい。

<生徒の生活習慣・基礎学力・学業への態度・進路意識>

- 生徒の生活習慣が中々確立できなく、真剣に学業へ取り組めない。
- 自己のことにつしか注意が行かず、将来にわたる進路意識が低い。
- 基礎学力が低く、小論文が書けなかったり、推薦要項を読み取れない。

<保護者に関して>

- 生徒の進路に関して、保護者の確認が取れず、進路活動が止まってしまう。
- 無関心な保護者が一定数いる。
- 学費に対しての意識が低く、入学金や学費を用意していないケースがある。

<外国につながる生徒の指導>

- 外国につながる生徒、日本語の理解が十分でない生徒への組織的な進学指導ができない。

<校内の進路指導体制>

- 校内での組織的・継続的な指導体制が確立できていない。

項目9 本調査で取り上げて欲しいテーマ

質問28 来年度以降、本アンケートで取り上げて欲しい課題等がありましたらお書きください。

<「専願」「併願可」について>

- 各校の「専願」「併願可」の校内ルール

<指定校推薦>

- 指定校推薦要項の書式の統一化・デジタル化
- 指定校推薦で不合格になった場合の対応

<調査書作成について>

- 調査書の内容や作成手順、管理職の点検時期、担当分掌など

皆様お忙しい中、「進学アンケート調査」にご協力いただきまして、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

コロナ以降、発表ができないない「進学アンケート」を、今回は文書としてまとめることができました。

今年度は、新学習指導要領に変わり、共通テストには、教科「情報」が組み込まれるなど、様々な変化の年でした。本アンケートへの回答率は83%と、多くの学校にご協力していただきましたが、昨年度よりも若干、回答率が低く、回答していただいた高校内での分析となっております。

近年は年内入試が活発になり、大学等の学生募集の傾向も年々変化している中で、昨年度のアンケートで取り上げて欲しいというテーマを質問項目に追加しました。特に、「専願と他の併願可能な大学（総合型、公募等推薦）との 同時複数出願について」や「指定校推薦の校内選考のやり方」「県内の一部大学での学校推薦型の推薦書に関する統一書式について」等は、進路指導に関わる教職員の皆様の興味のある内容であり、この質問に対する回答の集計・分析結果は、皆様の知りたいという欲求を満たすものであると確信します。

それぞれの学校ごとの困りごとなども伺うことができました。他校の職員も似たような課題に直面している状況や、それらの課題に対する工夫を窺い知れることができる結果報告になっているものと思います。この「進学アンケート」については毎年お忙しい中での依頼となり、仕事を増やしてしまうというご批判もありましたが、進路指導に関わる皆様の課題解決の糸口を提供できればと思います。来年度以降もご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

《調査研究委員》

布田 佳奈子（神奈川総合高校）／ 渡辺 奈津美（横須賀南高校）／ 藤岡 敦子（湘南台高校）
並木 俊恭（希望ヶ丘高校）／ 能美 悟（新羽高校）